

日時 : 2013 年 8 月 21 日(水) 13:00 ~ 17:00
場所 : 塗料報知新聞社 会議室
出席者 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、内山貴識(東和酵素株)、高橋大(株三王)、河本謙一(株小泉塗装工業所)、島田哲也(旭サナック株)、杉山博英(アネスト岩田株)、澤井昌廣(株桂精機製作所)、魚谷英未(日本ワコン株)
幹事: 平野克己(日本塗装機械工業会)、福田良介(日本パウダーコーティング協同組合)
アドバイザー: 坂井秀也(坂井技術士事務所)、木下稔夫(東京都立産業技術研究センター)
オブザーバー: 田村吉宣(いすゞ自動車株株)
ゲスト: 岡田久佳(岡久株)、田辺直(有)タナベ塗工所・愛車館タナベ(有)
井ヶ田幸生(埼玉県環境部大気環境課下川崎市環境局企画・監査担当主査)
小林昂太/左近雅美(明治大学森下正中小企業論ゼミナール、学生)
上原恵美(東京大学工学部化学システム工学科平尾・杉山研究室、助教・博士)
鈴木晋作(中小企業団体中央会)
事務局: 有馬弘純(塗料報知新聞社)

20 名 敬称略

***** 議 題 *****

開催に先立ち、午前 10 時から、協議会並びに分科会の今後のあり方について、平野幹事及び窪井分科会会長・内山/高橋両副会長で話し合いの場が同会場でもたれ、より広範な活動の展開をすすめるため、会の名称変更を決め、午後からの分科会参加メンバーに発表された。

会の名称は「国際工業塗装高度化推進会議」(国際塗装会議:IPC0=International Promoting Council of Industrial Coating)と決め、議長に木下真生氏(日本塗装機械工業会会長)、また下部組織の環境技術分科会には分科会長・窪井要氏(久保井塗装工業所)が就任することを決めた。

また今回、中小企業団体中央会の鈴木氏が窪井分科会長との個人的な繋がりで、休暇をとって参加。組織としてどう展開していくのが望ましいかについて次のアドバイスあった。「組合の設立を支援している。協議会は技術を軸に今のスタイルで自由に動くのが良いのではないかと。現時点での法人化は不要だと思う。また相談があれば応じたい」

その他、理工出版が会の模様を撮影するため途中から参加した。

■木下先生

次の資料を回覧した。

- ・日本再興戦略(平成 25 年 6 月 14 日発表)
環境・エネルギー、健康・医療、航空宇宙など成長分野への支援
- ・平成 25 年度戦略的基盤技術高度化支援事業
塗装分野一般型 1 件、同小規模型 2 件
- ・平成 24 年度ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発用等支援補助金
塗装関連採択一覧
- ・日本建築用焼付塗装研究会(塗装技術)
- ・工塗塾の立ち上げ(工塗連ニュース)

サポインについては「書式が変わっていた。連携としてのチーム力が見えにくくなった。川下企業の最終製品のここを改善すればここが良くなるというストーリーを描くことが重要」

■内山氏

ドライアイスブラストによる乾燥炉内のヤニ取りと、専用溶剤を用いたモーター本体の洗浄による消費電力カットについて報告

■魚谷氏

化成被膜水洗水リサイクルと委託再生式イオン交換樹脂塔についてデモ経過を報告
9月上旬に結果が出るので次回報告できる。

■田辺氏

開発中のバブリングブースについて進捗状況を報告
8月2日に新技術開発財団から補助金を受けた。
泡を強くする方法を考えたい。

■井ヶ田氏

秋にVOC削減のセミナーを開催するので、最先端の話題を探っている。

■上原氏

「環境影響評価に基づく持続可能型プロセス設計に向けて」を発表
化学物質を利用するプロセスの環境配慮型設計(塗装 印刷 洗浄)について研究している。
塗装における環境対策技術の導入データ提供(導入前後のVOC排出量やエネルギー消費量)、プロセスからの廃棄物・廃水に関するデータ・情報の提供、現場訪問などを希望(久保井塗装工業所へは訪問済)

※次回分科会開催予定

第1回環境技術分科会 2013年10月17日(木) 13時～17時 塗料報知新聞社 会議室

————— 以 上 —————